



GEKKAN ORIMOTO

月刊 織本

12

2012年12月1日 Vol.220

発行 医療法人財団 織本病院

印刷 〒204-0002

東京都清瀬市旭が丘 1-261

TEL 042-491-2121

URL <http://www.orimoto.or.jp/>

発行人 高木 由利



ホコリタケ(ケムリダケともいう)

リストランテ・ユリ

理事長・院長 高木 由利



12月の寒い風の中を銀杏の葉が舞っています。そこに朝の陽の光があたり銀杏の葉は金色に輝き、まるで踊っているかのようでした。東山魁夷の“木枯らし舞う”という絵を思い出しました。

* * *

12月6日、第8回目の“リストランテ・ユリ”を開催し、昨年に引き続き日本料理に挑戦しました。リストランテ・ユリは慢性腎不全の方々の治療の基本である腎不全食をフルコースで召し上がって頂く、年1回開いている食事会です。この会は“低たんぱく・減塩・必要十分なエネルギー”を3本柱とした治療食に真剣に取り組んでいる腎不全患者さんと、それを支援し理解して下さる医師を中心としたお客様のためのレスト

ランです。今年は43名の方々をお招きしました。私はこの日のメニュー作成を今年の春から始めました。様々な日本料理の料理人が腕を振っている料理を食べたり、日本食職人の本を読み、それを参考に1食がたんぱく10g、食塩2g、600kcalを基本としたメニューを考え続けた8ヶ月間でした。お料理にこんなに時間をかけることは日常ではあり得ないことですが、おいしくないと言われている腎不全食が実はこんなに美味しく、且つ腎不全の進行を食い止めるという事実を私は語り続けたいのです。

第1回目の2005年12月から8年間で学んだことは、“旬の食材”の個性を生かしていくことが、いかにお料理にとって大切であるかということでした。私が小さい頃は“旬”という言葉がいつも語られていたように記憶しています。料理上手の母は幼い私に、春は菜の花のお浸しや筍ご飯、夏は真っ赤なトマト料理、秋はさんまの塩焼きときこの



出番を待つお料理達

栄養量 (1人分)

- たんぱく質 11.5g
(動物性たんぱく比 61.7%)
- 塩分 2.0g
- エネルギー 583kcal

リストランテ



冬 蓮根と豚ひき肉のおとし団子
あざりと大根の甘酢和え
高知県産茄子の素揚げ
井上料理長の茶碗蒸し
きのことさつま芋の和風ちまき
小さな茗もち

おしながき

ご飯、そして冬は蓮根のはさみ揚げや白菜鍋を楽しませてくれました。しかし、いつの日か1年中赤いトマトが八百屋さんの店頭を飾り、子供達の口から“旬”という言葉が消えていったように思います。

2005年12月にスタートしたレストランテ・ユリは南仏、イタリア、台湾、ハンガリー、フランス、ドイツなどお料理の旅は続きました。その中で私が悩んだのは食材の味が季節によって全く異なることでした。夏作ったトマト料理は12月のレストランテでは作り方が同じでも期待通りの味が出ないのです。大量の食塩や大量のたんぱくを使えば簡単に味が出せることも知りました。しかし、腎不全食は全くごまかしがきかないのです。たかだか1食10g前後のたんぱくの内、その60～70%を動物性たんぱくにしなければ腎不全は別の形で悪化するのですから、念入りに食材の計算をし、動物性たんぱくと植物性たんぱくの比率を克明に計算していかな

ければならないのです。更に分かったことは、この正直なお料理を成功させる鍵が“旬”なのです。その時期にとれる食材は、大気、気温、水温、土の状態、海の状態、天地の全てがその食材の味、栄養などを最高の状態にしてくれるのかもしれませんが。

12月6日の小さなレストラン“レストランテ・ユリ”は小さなお料理の結晶なのです。



レストランになったオリモトホール

被災地支援復興バスツアー に参加して

看護部長・メディカルセンター長 鈴木 秀明



10月27日（土）午前7時15分、織本病院正面玄関前に職員16名が集合し、途中新宿からも一般の方や復興支援関係者の方が合流して、総勢23名で一路南三陸へと向かいました。

約7時間で仙台に到着し、宮城観光復興支援センターの氏家さんの案内で石巻の野蒜^{のびる}地区、南浜地区を見学しました。野蒜駅は津波にやられ現在電車は走っておらず、震災・津波の後の時間の経過を表すように、草が線路跡に生い茂っています。南浜地区では、人々の命と生活を奪った津波の高さを表すモニュメントがあり、そのポール状のモニュメントの一番上まで津波が押し寄せたそうです。これでは泳げる人でも助かりません。沢山の献花がされていましたが、その多さからも失われた人々の数の多さがうかがい知れます。ここでも住宅跡地を覆い尽くすように生い茂る草が震災からの時間の経過を物語っていました。防災センター

では、語り部の方から直接お話を聞く事ができました。80歳位のおばあさんがベッドの上で手を振りながら津波に吞まれて行く話や、病院の看護師は患者さんを上層に避難させながら、もう自分は助からないと思い自分の両手両足に住所と名前を書いて患者さんの救護を行っていた話。この行為は、自分が津波に吞まれバラバラになったとしても自分である証を残すために付けたそうです。

宿泊先のニュー泊崎荘に到着し、赤ちゃん一時避難プロジェクトで新潟県湯沢町に避難された南三陸の御家族の皆さんとも合流して、一緒に食事をしながら当時や現在の状況についてお話を伺いました。お話しを伺う事で南三陸の人たちに辛い事を思い出させてしまったのかもしれませんが、その重い話とは対照的に食事を終えた大勢のちびっこギャング達が笑顔でキャーキャー言いながら走り回る姿に、第二次世界大戦やチ

り津波、そして今回の震災を乗り越え、生を次の世代に繋げていく人間という生物の強さを感じました。

28日（日）は朝9時に宿を出発し、職員の方が多数犠牲になった南三陸町防災対策庁舎に行きました。3階建の庁舎の更に鉄塔の先にある風力計の所まで津波が来たとの事で、いかに今回の津波被害が凄まじいものであったのかを改めて感じる事となりました。地盤沈下で土地が海よりも低くなった為、周囲には水たまりが出来ていました。その後、避難場所となった志津川中学校を訪れ高台から南三陸町の全景を見たのですが、庁舎からこの志津川中学校まではかなりの距離があり、徒歩で逃げてくることは不可能。ましてや子供を抱えながらなんて到底無理ですが、事実としてこの高台の下まで津波が来たとの事ですので、やはり海沿いの土地ではなく高台への移転しか選択肢は残されていないのではないのでしょうか。

それから福興市会場のベイサイドアリーナに移動し、南三陸町の遠藤健治副町長、福興市実行委員長で地元山内水産の山内社長から御挨拶をいただきました。続いて、震災直後から南三陸町医療統括本部責任者をされていた、志津川病院副院長の西澤匡史先生のお話を一時間ほど伺いました。現在、東京での震災の発生が予想されていますが、先生のお話は本当にた

めになる重要なお話だったと思います。織本病院は東京での震災発生時の最前線に立って活躍する事となるので、今回の話を聞けたことで助けられる命の数が増えたのではないかと思います。

講演会終了後は、福興市で各自好きなものを購入し昼食を取り、お土産も沢山買って、バスは新宿、清瀬へと向かいました。特に体調を崩す方もなく無事にツアーを終える事が出来ました。南三陸のご家族からもお礼と感謝の連絡がありました。

被災地を訪れる度、被災者の方とお話をする度に感じます。今の自分の置かれている環境の素晴らしさを、そして決して忘れてはいけない事を、相手を思う心の大切さを、全ての事に感謝する心を、今回参加した方々の心に焼き付けて頂きたいと切に願います。

この未曾有の災害での被災者の方々にエールを送ると共に、亡くなられた方及び、未だ行方不明の方々のご冥福を祈ります。私たちは、絶対に忘れません。共に復興へ前進していきましょう。



看護副部長 松山 都奈子



1年半前のあの災害以来、主にテレビの映像から毎日各地の被害状況、また現在の復興の進み具合等の情報を得て、自分なりに認識しているつもりでした。でも、実際ひとつの町が消えてしまい家屋の土台や鉄骨だけが残り、寸断されたままの鉄道や道路を目の当たりにして、不謹慎ながら初めて肌でその悲惨さを感じ取りました。一緒に同行して下さった早稲田商店街の安井会長が、「とにかく来て見てほしいと南三陸の町長さんに言われました」とおっしゃっていましたが、その意味が今よくわかります。個人ではなかなか行く機会が得にくいですが、病院単位でツアーを組む方法が背中を押してくれました。そして何か出来ることがあればお手伝いしたいと当たり前のように考え



ている自分がいます。

徐々にではあるけれど瓦礫が片付けられ、土地が整備され、少しずつ風景が変わりつつあります。そんな自分の体験から、少しでも早く、少しでも多くの方が自分の足で被災地に立ち、自分の目で実際に見てこの現実を忘れないでほしいと心から思っています。

このツアーを企画、同行して下さった方々に本当に感謝いたします。

Orimoto Hospital Christmas Concert 2012



織本病院クリスマスコンサート

2012年12月15日(土)
14:00開演(開場13:30)
オリモトホール(当院4F)
入場無料

【指揮・指導】
クロイツァー 涼子

【ピアノ伴奏】
篠田 昌伸

【合唱】
織本病院混声合唱団
長谷川 充子
真下 孝子
小林 伸子
高橋 典子

腎疾患ゼミナールからのお知らせ

12月は、通常の腎疾患ゼミナールはお休みとなります。来年1月には特別講師をお迎えして新春特別講演会を開催、2月からは通常の腎疾患ゼミナールに戻ります。どなたでもご参加頂けますので、皆様是非お越しください。



— 2013年 腎疾患ゼミナール 前期日程 —

【ワンポイントアドバイス】

- | | | |
|-------|----------|---------------------------------------|
| 第140回 | 1月17日(木) | 新春特別講演会
講師：滝山聖書バプテスト教会
牧師 片村襟舎氏 |
| 第141回 | 2月14日(木) | 栄養科 (レシピ・試食付き) |
| 第142回 | 3月21日(木) | 薬局 |
| 第143回 | 4月18日(木) | 栄養科 (レシピ・試食付き) |
| 第144回 | 5月30日(木) | 看護部 |

糖尿病教室のお知らせ

12月の糖尿病教室は下記日程により開催致します。皆様、是非お越しください。

会場：第1会議室(当院4階)
 時間：午後1:00～1:45(開場12:45)
 参加費：無料
 予約：不要(直接会場へお越しください)

第17回 12月4日(火)

「歯周病と大血管障害」 講師：看護師
 「糖尿病の飲み薬」 講師：薬剤師

第18回 12月18日(火)

「塩分について」 講師：管理栄養士
 「糖尿病に対する運動療法②」 講師：理学療法士
 「糖尿病の検査②」 講師：臨床検査技師

たくさんの方のご参加をお待ちしております。